

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671600258		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム亀岡千代川		
所在地	京都府亀岡市千代川町小林北13番29		
自己評価作成日	平成24年9月10日	評価結果市町村受理日	平成25年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ハード面は悪いけれど、ソフト面でカバーし、常に利用者さま、ご家族様の立場にたち、考え行動する。 ・階段を利用し下肢筋力の低下をふせいでいる。 ・利用者さまのペースに合わせ何事もすすめる。 できるだけ外にも出て行き、利用者様のペースに合わせて歩き、下肢筋力低下を防ぎます。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JiryoVoCd=2671600258-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年11月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該事業所は2階建ての利点を活かして階段の昇降で足腰を鍛えたり、戸外で利用者のペースに合わせて歩く事を大切に筋力の低下を防いでいます。利用者から料理、縫物、手芸などの出来る事を其々に引き出して、レクリエーションと結び付け生き生きとした生活ができるよう支援しています。地域住民にアンケートで事業所や認知症についてどのように理解して貰っているのかを聴き、認知症サポーター講座を地域包括支援センターと一緒に開催し、認知症を正しく理解して貰う働きかけをしています。近隣の方がカラオケ機器持参で来られて利用者と一緒に楽しまれたり、野菜や果物、花を貰う等、地域とは良好な関係が築かれています。また運営推進会議での意見を基にお寺の住職の法話を聴くことになり利用者にも好評で今後も継続して行うなどサービスの向上に向けて取り組んでいます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関にGH独自の理念を掲げ共有している	事業所独自の理念を職員全員で作成し玄関に掲示して毎朝唱和をする等、職員に浸透するよう努めています。またカンファレンスで振り返りながら利用者が1年を通じて戸外に出掛けられるよう支援するなど理念に添った実践をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、散歩の時こちらから挨拶するようにしている	自治会に加入し回覧板で地域の情報を得て夏祭りや区民運動会、公園の清掃などに参加しています。日々の散歩や買い物時にも近隣の方と親しくなり野菜や果物、花等が届けられるような良好な関係が構築されています。事業所主催のクリスマス会や敬老祝賀会には地域のボランティアを招待したり、地域へのアンケート調査や認知症サポーター講座を開催する等多くの交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講習を開催している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中でいろんな情報をいただきサービス向上につとめている	会議は市議員、市の担当者、地域包括支援センター職員、家族・利用者代表のメンバーで隔月に開催し、事業所の活動状況の報告や意見交換を行っています。委員から「住職の法話」の提案があり、職員で話し合い実施し、利用者に喜ばれる等、意見を反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、報告や相談などし関係を築いている	市の担当者は運営推進会議のメンバーで事業所の状況を理解して貰い、議事録は次回の会議の時に渡しています。市の主催する地域密着型協議会に参加し行政や他の事業所と情報提供や意見交換をする等、行政とは協力関係にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠をしないようにし、常に出入りに注意をはらい、外に出たい気持ちをくんでいる	法人研修で身体拘束をしないケアを学び、カンファレンスで伝達研修を行い拘束について正しく理解出来る様にしています。職員の不適切な言動に対しては場所を変えたりカンファレンスで指導しています。玄関の施錠はせずに利用者の出掛けたい素振りの時は一緒に出掛ける等、気分転換を図る様に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加しホーム内でも伝達講習をしている		

洛和グループホーム亀岡千代川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要あるときにカンファレンスなどで話し合い活用できるよう支援する		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートをとったり、ケアプラン見直し時に希望を聞いたり、面会の都度家族様とコミュニケーションをとり話しやすい関係をつくるようにしている	面会やイベント時、電話等で要望や意見を聴き、家族アンケートも年2回行っています。来訪時には職員から話し掛ける等、意見を言い易い雰囲気になるよう配慮しています。家族からアイロンがけ等、利用者が出来る事をさせてやりたいと要望があり、職員間で検討し実現に向けて取り組むなど意見が反映できるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスに所長も参加してもらい意見を聴いている。雑談の中からも意見や提案を聴いている	カンファレンスや年2回のヒアリング時、日々の業務や会話の中で職員の意見や提案を聞いています。空気清浄機や加湿器の設置等、出てきた要望や提案は運営やケアの質の向上に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の話をしっかりきき努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り研修に参加してもらい、現場でも必要な時指導している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内、外共に機会あれば参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と話せる機会をできるだけ多くもつ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかり話しを聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に作り、掃除を一緒にし、お茶や休憩も一緒にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは密に連絡をとり、相談しながら本人をささえている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者とも良い関係をつくり、又面会に来ていただけるよう雰囲気作りをしている	定期的に来られる利用者の友人には職員から声をかけるなど居心地よく過ごせる雰囲気を作り、関係が継続出来るよう努めています。本の好きな人は図書館に行ったり、家族の協力を得て実家や墓参りにも行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士から広がる話もあり、孤立する方ないように、さりげなくはしわたしをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのコミュニケーションの中から、希望、意向をくみあげるよう努力している	センター方式を使用し契約時に利用者・家族から意向や希望を聴き取り用紙に記入し職員で共有しています。又、日々の会話で知り得た情報は介護記録に記入し、カンファレンスで話し合っています。把握が困難な方は日々の表情から思いを汲み取り本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からしっかり話を聞き取っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で申し送りをし、一人ひとりの現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	時には家族様や、Drとも話し合い、意見やアイデアをいただいている	家族や利用者の意向、アセスメントや情報シートを基に介護計画を作成し、プランに添って日々の介護記録を記入し3ヶ月毎にモニタリングを行っています。6ヵ月毎に定期的な見直しを行い、状況に応じて随時計画を見直しています。カンファレンス開催前には家族に希望を記入して貰い、医師からは往診時に指示を得ています。必要に応じて医師や家族もカンファレンスに参加しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は介護日誌に記録し、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能なかぎり、本人や家族の希望に添えるよう心がけている		

洛和グループホーム亀岡千代川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の歌の好きな方とGHでカラオケを楽しまれる支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される場合は、そのまま継続していただいている	入居時に今までのかかりつけ医の継続も可能である事を説明し、希望により協力病院に変更された方もあります。受診同行は家族や事業所が行い、情報は電話や文書で報告し共有しています。2週間毎に協力病院の往診があり定期的な健康管理を行っています。協力医とは24時間連絡可能となっておりますが救急車にて救急搬送を行うこともあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談しながら支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族とも連携とりながら病院とも連絡とり関係づくりにつとめている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のも説明はするが、実際重度化や終末期になった時、その都度話し合いをする	入居時に本人、家族に看取り指針を基に説明を行い、容態変化の時はその都度、医師や家族を交えて意向を確認すると共に事業所で出来る事も話しています。法人主催の看取りについての研修やホームでの伝達研修を受け職員全員が理解を深めています。入院や他施設への転居になる場合が多く看取りの経験はありませんが、家族の意向に沿って看取りを行う体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	二ヶ月毎に避難訓練をしている	避難訓練は消防署立会いの下、夜間想定で年2回、初期消火や通報、避難誘導等を行っており、地域の方の参加も有ります。事業所独自でも隔月に訓練の復習を行っています。地域の防災訓練は利用者と一緒に参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスの時などに、言葉遣いなどを見直す時間を時々もうけている	法人主催の研修で接遇やプライバシーについて学び、カンファレンスで伝達研修をして職員間で共有しています。部屋に入る時はノックをしたり、トイレの声かけは小声で行い、口腔ケアや風呂の脱衣は見えない様にする等、日々心掛けています。職員の気になる言動は職員間で注意し合ったり、会議で事例を挙げて話し合う事もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択してもらう機会を意識してつくるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に添えるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お元気だった頃の好みを家族様などから聴き、その方らしい身だしなみを心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	だいたい利用者様と献立を考え、一緒に準備している	冷蔵庫の材料を見ながら利用者の好みを取り入れ献立を立てています。足りない食材は利用者と一緒にスーパーへ買いに行き、野菜の処理や調理、配膳、後片付け等、出来る事を手伝ってもらっています。職員も同じテーブルで同じ物を食べ、会話をし、楽しみながら食事ができるよう支援しています。2～3ヶ月に1回行事に合わせて外食にも出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方は水分チェック表を利用したり、ご飯のグラムを量り管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は声かけ程度になっている		

洛和グループホーム亀岡千代川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便コントロールしている方も、排泄パターンを把握することによりトイレでの排泄に努めている	排泄チェック表により排泄パターンを把握し声かけや誘導をしています。また様子を見ながら随時誘導して、トイレで排泄を支援しています。入居時に紙パンツだった方がトイレ誘導をする事で布の下着に変わった人もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では便秘予防の取り組みをしたり、腹部マッサージなどしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り希望に添えるよう努力している	毎日午後から入浴準備が出来ており、少なくとも週に2～3回は入ってもらっています。毎日の希望にも沿える様にしています。湯は毎回入れ替えて、マンツーマン対応でゆっくりとコミュニケーションをとり楽しみながら入浴出来るよう取り組んでいます。季節の柚子湯や入浴剤、拘りの石鹸やシャンプーを使用している人もいます。入浴拒否の方は、人や時間を変えたり声かけの工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自力で居室に戻れない方には、その方の様子をみながら居室にもどり休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書で確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から、張り合いや楽しみをひきだし支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力を得ながら墓参りなども支援している	日々の散歩の他にドライブや桜、ひまわり、コスモスなど季節毎の花見や紅葉狩り、初詣等家族の参加を得て出かけています。行事に合わせて外食を楽しむこともあります。ラーメンを食べに行ったり、買い物に出かける等、個別ケアにも取り組んでいます。	

洛和グループホーム亀岡千代川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたい方については持ってもらい、買い物支援もしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はしたいときしていただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度、光の入り方にも注意を払っている	リビングは四季折々の写真や季節の花を飾り季節感のある空間となっています。陽の光はカーテンなどで調節し、温湿度計を置いて空調管理を行い、換気して快適に過ごせるように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にソファを置き、リビングの人気を感じながらも、人と少し離れることができる場所になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ家で私用されていた物を持ってきていただくようお話している	利用者其々の居室入口には家族手作りの表札が掛けられています。利用者が使い慣れたテレビや筆筒、ソファ、鏡台等の他、ぬいぐるみや家族の写真を持ち込まれその人らしい居室に設えたり、エアコンの風の方向や夜間の危険性も考えながら安心して過ごしてもらえるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段には両サイドに手すりをつけ安全に上がり下りできるよう配慮している		